

WAKUWAKU通信

特定非営利活動法人豊島子どもWAKUWAKUネットワーク

Dec.2018
Vol.2



OSEKKAERU

発行日:2018年 5月 発行者:特定非営利活動法人豊島子どもWAKUWAKUネットワーク 〒171-0014 東京都豊島区池袋三丁目52番21号

WEB:<http://toshimawakuwaku.com> TEL:090-3519-3745 Mail:info@toshimawakuwaku.com

今年の3月18日に、第1回WAKUWAKU祭りを開催いたしました。
今号では、その中で「活動や思いを伝えるリレートーク」部分をお届け致します!!

「WAKUWAKUホーム」

WAKUWAKUホームは、子どもを一時的に預かったり、宿泊にも対応しています。宿泊機能を備えていることで、親子が距離を置きたいときや緊急に預かってほしいときに利用できます。開会時に演奏した「Chante!」コーダークラブはWAKUWAKUホームで練習しているコーダーグループです。ホームを開所して1年たちますが、子どもたちと一緒にゲームやかくれんぼ、プロレスごっこをしたり、ここでの活動に退屈さはなく楽しいです。親と子がほっとできる居場所になるように今後も活動を続けていきます。(天野・水島)

「池袋子ども食堂」

大きな柿の木のある家に91歳のおばあちゃんが住んでいます。なので、「柿の木のおばあちゃん家」とよんでいます。せまい家ですが、4歳の子供から91歳のおばあちゃんまでが食卓を囲みます。子どもたちが体の不自由なおばあちゃんの手引きをしてくれ、みんなでおばあちゃんを手伝ってくれています。家を提供することで、子どもたちや、そのお母さんたち、いろいろな出会いがあります。おばあちゃんと二人だけで生活していたら、このような人とのつながりはなかったので大きな財産です。(あこさん)

母を13年間介護し、子どもが成人し、なにもやる事がなくなった中で、この子ども食堂のボランティアに出会いました。誰もいなくなってしまった家では「お帰りなさい」「いつてらっしゃい」という機会がもうないと思っていましたが、この子ども食堂で言えるようになって、毎回楽しいです。食堂をやっていることで、つながりもでき、ボランティアは楽しく自分の生きがいにもなっています。(杉田)

「要町あさやけ子ども食堂」

要町あさやけ子ども食堂は、アットホームでおやじ達が活躍するおやじ食堂としても有名です。ここでは、パンを焼く工房(あさやけベーカリー)があるので、このお祭りのために、朝9時からパンを焼いてきました。今年の3月21日で、5年目になります。とくに予約などなくても大丈夫ですので気軽にふらっと遊びに来てください。(山田)

「夜の児童館」

椎名町駅から徒歩すぐの金剛院というお寺で開いています。今年で4年目になり、当初から調理ボランティアとして活動しています。来ている子どもは決まった人数でスタッフとみんなで食卓を囲むと大家族のようで楽しいです。長く関わっていると子どもたちの様々な変化もみられ、例えばとがった言葉を使っていた子どもの言葉づかいがやわらかくなったり、年下の子ども気遣うようになったり、調理の手伝いに興味も持つ子どももいます。子ども達が少しでもリラックスできて、いろいろな刺激が受けられる心地よい居場所になることを願っています。(西永)

「椎名町こども食堂」

2階の遊び場担当で当初はなかなか2階に来てくれず、他のボランティアさんという試行錯誤しました。卒業論文でこども食堂についてお母さんにインタビューしたところ、「2階に遊び場があるから助かった」という声が聞いてやっていて良かったなあ嬉しかったです。4月からは保育士になります。このこども食堂での経験を活かし社会人として活躍していきたいです。(鈴木)

調理担当のため子どもやお客さんと関わることは少ないのですが、完食や、おかわりに来た子、食器を片づけてくれた子を見ると嬉しくなります。賑やかで楽しくて、自分も元気をもらう場所でもあります。4月から社会人になりますが、就職先を選んだきっかけはこの活動があったからこそです。これからは、豊島区全体に関わる仕事に就く予定なので、なんらかの形で今後もこども食堂に関わっていきたいと思います。(赤坂)

「ほんちよこ食堂」

山本さん(WAKUWAKU理事)から「手伝ってくれる?」と声をかけられたことがきっかけで携わるようになりました。はじめてみて良かったことは、こども食堂をきっかけとして地域の孫のような子どもたちと顔見知りになり言葉を交わせるようになったことです。ほんちよこは、元気をもらえる居場所です。志を共にする仲間ができたことも嬉しいです。(板谷)

「池袋WAKUWAKU勉強会」

大学1年から約1年半ボランティアスタッフとして活動しています。自分と相手はギブ&テイクの関係が普通だと思っていましたが、勉強会に関わるようになって、何かをするから必要というわけではなく、そこにただ居ることも大切だと知りました。この居場所は私にとってつい行きたくなってしまふ、心地のいい場所です。(栗原)

母が上海、父は栃木出身で、自分は海外にルーツがあり、日本語教育に関心があったり関わり始めました。WAKUWAKUでの活動は色々な深い問いが問われる場所で、自分でも知らない間に来てしまう居場所になっています。大学では自分のことを「語れる・考える時間」がないですが、そうしたことを出来る貴重な場所です。子ども達が喜ぶような、新しいことを色々作っていききたいです。(益子)

「池袋本町プレーパーク」

高齢出産の後、周りに知っている人もいない状況のなか子育てをしていました。そのような孤独感を抱えていたある日、道を歩いていたら、ゴミ拾っていた人が声をかけてくれ、それがWAKUWAKUの栗林さんでした。そしてプレーパークの存在を知り、子どもと一緒にプレーパークで遊ぶようになり、自分も活動に関わるようになりました。地域との繋がりも出来、その中に溶け込めるきっかけになってよかったです。自分の居場所、大切な場所にもなっています。(高橋)

活動や思いを伝えるリレートーク

「WAKUWAKU祭り開催趣旨」

WAKUWAKUは地域の子どもの真ん中に様々な人がつながり、現在では豊島区内で8か所の居場所運営と、約500人がゆるやかにつながる活動へと広がりました。ボランティアや食材等を提供して下さる方は、年間延べ2500名です。

この活動は、私たちひとりひとりが、「はらぺこやひとりぼっちをほっとけない」意識とほんの少しの「できること」がつながることで成り立っています。そうしてつながることで喜び、やりがいとして、私たち自身に戻ってきているのではないのでしょうか?

賛同して下さるみなさん、寄附をして下さるみなさん、活動を共にするみなさんが顔と顔を合わせてつながり、さらにまちの子どもやひとり親ママやパパも一緒にそれぞれの活動を知り、「やってみたいこと」と「私ができる資源」をつなぎ、私たち自身が元気になるための!お祭りを開催しました。

「ホームスタート」

自分が子育てをしていた時、保健師の家庭訪問がとても良かったので、こういう訪問型支援があると良いと思っていました。10年前、大正大学の西郷先生(WAKUWAKU理事)の講演会に行き、ホームスタートのことを知ったのがきっかけで、この活動をWAKUWAKUではじめました。(荒砥)

訪問して、共感して、一緒に家事や子どもの遊び相手などをし、一緒に行くことで不安なお母さんがこうやったらいいんだと感じもらい、子どもの世界(子育て)には予定などなくそれに慣れるまでのお手伝いをしたいと思っています。煮詰まったときにお母さんが第三者に救われることも有るのではないのでしょうか。(ビジターさん)

WAKUWAKU勉強会のボランティアスタッフさんが素敵なイベントを企画してくれました

「憲法勉強会」(2017年3月14日)文:佐藤ひかり

「日本国憲法って読むと力もらえるよね!」そんな、あきこさん(WAKUWAKU理事)の言葉から「私たち一人ひとり、憲法によって権利を保障されているという大切な事を伝えたい!」という思いを持ったメンバーが集まり、憲法勉強会という企画を行いました。主に高校生と中学生を対象に憲法の原文と、それを若者言葉に置き換えた翻訳版を使い憲法を読み解くとともに、憲法改正草案と現行憲法を比較し、何が変わろうとしているのかについてディスカッションを行いました。

企画した当初は、大人にとっても堅苦しいイメージのある憲法や法律に子ども達が興味を持ってくれるか、話を理解してもらえるか、とても不安でした。しかし、子ども達は熱心に憲法について考え、たくさん質問をしてくれました。

私達が弱い立場に置かれた時、法的保護を受けるためには、自ら法を知りそれを主張する事が必要です。もし、子ども達が将来困難な状況に置かれた時、この勉強会でのことを思い出して、自ら法的保護を求めたり、誰かに相談したりするきっかけになればと思います。

現在、憲法を改正しようという動きがあります。憲法を改正するべきかという問いに、「正解」はないでしょう。その答えのない問いに対しても、日本の主権者のひとりである私達は考えることをやめてはいけないと思います。子ども達がこの問いへの答えを探す際に、この勉強会が少しでも手助けになれば嬉しいです。

「ワクワク社会科見学」(2017年3月27日)文:栗原梨紗

私たちWAKUWAKU勉強会のボランティアは、「芸術作品を実際に見ることで教養を身につけよう!」というテーマのもとWAKUWAKUに来ている子どもたちと一緒に上野の美術館に行くワクワク社会科見学という企画を行いました。

企画しておいてなんですが、よくわからない絵を見るより外で遊ぶ方が楽しいなんて言われて、子どもにとってつまらない企画かもしれないと不安がありました。しかし、実際に行ってみると美術館のスタンプラリーに誰よりも真剣に取り組んだり、エジプトのミイラを見て興奮していたりと、子どもたちは目を輝かせて楽しんでくれているようでした。企画してよかったなあとの底から思える1日でした。

この社会科見学が、子どもたちにとって忘れられない経験の1つになっていければ嬉しいです。また、次回も企画したいです!!

「石神井公園と農場に行こう」(2017年夏)文:松浦かえで

「あーあ、もっと楽しんで勉強できないかなー」ということで、2017年夏のこと。長期休暇が始まり暑さも増していく中、野外での勉強会を開催しました。教科書とにらめっこするのではなく、本の枠を出てもっと自由に楽しく興味を広げられる場を作りたい!という思いの実現です。学びの発火材を...ということで農学部を巻き込むことに。舞台は石神井公園と小泉牧場、東京のど真ん中にこんな自然があるとは驚きです。公園では、植物に詳しい大学生にそこらへんに生えている植物の観察方法を教えてもらいました。普段は勉強しない子どもが熱心に質問やメモをとっている姿に感動しました。牧場では獣医の卵が子どものサポートをし、特大の牛や子牛の観察をしました。最後は牧場のアイスクリームを食べて、どうもお疲れ様でした。予想以上に子どもたちが活発に動いてくれて、子どもの学ぶ力の柔軟さを再確認しました。汗だくになってついて来てくれた子どもたち、協力してくれた大人の皆さん、友人のみんな、ありがとうございました。



「WAKUWAKUクリスマス音楽会」(2017年12月19日)文:佐藤ひかり

普段、インターネットやCDなどで、プロの音楽を、好きな時に好きなだけ聴くことができます。しかし、音楽は、生まれた瞬間に消えてしまう、儚く、だからこそ魅力的だという面もあります。そんな思いで、「子ども達に、生の音楽の良さを伝えたい!」と企画したのが、WAKUWAKUクリスマス音楽会です。

音楽会では、サンタが街にやってくるなどの曲を、大学生がヴァイオリンと歌で演奏した後、子ども達がドレミの歌の合奏を行い、最後に全員でジングルベルを演奏しました。

子ども達の元気な歌声や演奏は冬の寒さも吹き飛ばすほど、素晴らしいものでした。あの時、あの場所だけの、緊張感たっぷりの、生の音楽の良さが、少しでも皆さんにそして子ども達に伝わっていれば幸いです。



「豊島区役所庁舎見学ツアー」(2018年1月9日)文:吉田雄太

WAKUWAKU勉強会(以下、勉強会)において私が伴走している中学生の男の子が「将来公務員になり、今度は彼が勉強会で子どもたちの伴走をする」というのが私のささやかな夢であり、毎週、勉強会に参加する大きな原動力となっています。

そんな私の期待とは裏腹に、「将来の夢は格闘家」で「高校には行かない!」と宣言している勉強嫌いの彼に、公務員の仕事に興味を持ってもらおうと考え企画したのが、この豊島区役所庁舎見学ツアーです。

当日は、彼を含め勉強会に通う中学生4名と大学生ボランティアとともに、豊島区役所へ向かいました。区役所では豊島区職員の方から、各フロアをまわりながら各部署の仕事内容を説明していただきましたが、目新しい庁舎や区役所の様々な仕事に子どもたちも興味津々。「区役所ではどのくらいの方が働いているのか」や「区役所の仕事でスポーツに係るものなどといった仕事があるのか」「この建物にミサイルが撃ち込まれたらどうなるのか」などなど、幅広い質問が子どもたちから出ていました。職員の方の話をしっかり聞き、分からないことがあればきちんと質問をする子どもたちの姿は、勉強会で見せる無邪気なそれとは違い、わずかながら大人の雰囲気を出していました。この子たちもこんな顔をするのか、と感心したのを覚えています。

勉強会に戻ったあとに書いてもらった子どもたちの感想の中に「学校の社会科見学に行ったことがなかったので貴重な体験ができました」というのがありました。確かに、WAKUWAKUに関わっている子どもたちの中には不登校の子もある程度存在していて、そういった観点からも今回の企画は意味のあるものでした。今後も子どもたちと一緒にたくさんの経験をしていきたいと思っています。



この度、クレジットカードでのご寄附、賛助会員費のお支払いが出来るようになりました。今回のみのご寄附から月単位での継続したもまでご利用いただくことが可能です。詳細は、WAKUWAKUのサイトまたは、右記QRコードよりご確認ください。今後とも変わらぬご支援を賜りますようお願い申し上げます。

